

公立大学法人横浜市立大学の令和2年度年度の実績に関する各委員評価一覧

S(4):年度計画を上回って達成している。または達成の難易度が高い計画を順調に達成している。 A(3):年度計画を順調に達成している。  
B(2):年度計画を十分には達成できていない C評価(1):年度計画をほとんど達成していない。

令和2年度 年度計画(項目)	頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	6	A	A	S	大学の根幹である教育研究について、教育上の各種工夫、学生支援の充実、新型コロナ関連の優れた研究上の貢献など、秀でた成果が認められる。
				A	教育研究向上に対する全学的な取り組みを進め、順調に成果を挙げている。
				S	教育に関する取組と、研究の推進に関する取り組みについて高く評価できる。コロナ禍という負荷に耐えて努力されたなかでも、後者の成果には著しいものがあった。全体として年度計画を上回って余りありと評価する。
				A	コロナ禍において、従来のやり方に加え下記の点に早期に取り組み、教育研究の質レベルの維持に努力した点が評価できる。
				A	
I-1 教育に関する取組	6	A	A	S	カリキュラム評価に係る学生満足度の向上、FD・SD受講状況の増進、学生支援策の拡充など、教育面の充実に顕著な努力が認められる。
				A	コロナ禍における教育体制ならびに学生支援体制の対応を高く評価する。授業に関しては、アクティブラーニング導入率も高くなっている事などから学生満足度も上がり、また全学的な共通教養としてのデータサイエンス教育の推進も順調に進んでいる。
				A	コロナ禍にあっても教職員が一丸となって電子媒体を駆使した方法論などの利活用に当たって、学生の満足度についても高い評価が得られた。
				A	ハイブリッド授業等、学修環境を早期に整備した。FD研修会を取り入れるなど全員で工夫。
				S	年度初めから新型コロナによる緊急事態宣言という前代未聞の事態となったが、オンライン授業への教職員側の体制整備、学生側のIT環境の整備、サポートも含め、オンラインを取り入れた教育活動へ大きな問題なく移行できたことに敬意を表したい。
I-1(1) 全学的な取組	6				
I-1(2) 学部教育に関する取組	9				PBLを積極的に取り入れ、学生満足度も上がっている。
I-1(3) 大学院教育に関する取組	12				社会人学生の獲得に向けた努力を評価する。
I-1(4) 学生支援に関する取組	15				ビジネスの変化のスピードが加速する中、社会人を対象とした多様な学習機会は今後ますます必要とされる領域であり、みなとみらいサテライトキャンパスを拠点とし、オンライン授業と併用する等、学びやすいプログラムの充実に期待している。 コロナ関連支援に十分に注力したことがわかる。
I-2 研究の推進に関する取組	16	A	S	S	新型コロナ関連の検査技術や抗体検出技術の展開、抗体保有状況の調査研究の成果など、社会的にもインパクトの大きく評価されるべき研究上の取り組みのほか、科研費採択数・共同受託研究数・発出論文数も顕著な増加を見せている。
				A	質の高い学術論文出版数も増加し、大学発ベンチャー支援も順調に進んでいる。URAの増員や研究リスクマネジメント部門の取り組みを評価する。
				S	新型コロナウイルス感染症に関連した研究成果には著しいものがあった。特に抗原検査キットが販売されるに至ったなどは、研究の成果が社会実装の水準に至ったことになり特筆に値する。
				A	非来館型サービスの実施、学生に対する給付金の支援等対応し、就学環境の維持に努めた。
				S	新型コロナウイルス抗体検出技術はメディアでも取り上げられる機会が多く、研究成果として社会的なインパクトも大きかった。
I-2(1) 研究の推進に関する取組	16				中期計画に挙げた主要学術誌等掲載論文数、科研費採択数、共同受託研究数が目標とする指標をすでに大きく上回った。
I-2(2) 研究実施体制等の整備に関する取組	18				
II 地域貢献に関する取組	19	A	A	A	横浜市及び市民への貢献に努力している。
				A	コロナ禍の中でも学生ボランティア活動を実施したり、市民への授業解放など、出来る限りの地域貢献を行った。
				A	コロナ禍にあっても予定通りとならなかった催しなども散見されるが、横浜市の抱える諸課題を学びながら、そのことが地域貢献に結び付き、多くの活動がなされている。また、コロナ禍を機にオンライン講座を発展させることもできた。年度計画を十分に達成したと評価することができる。
				A	コーディネーター設置、教員紹介冊子作成等、更に一歩前進。
				A	エクステンション講座は中止を余儀なくされたものも多かったとのことだが、今後オンライン授業のノウハウを生かし、遠方・育児中や介護中など、物理的な制約のある受講者でも受講可能な講座の拡充を期待したい。
III 国際化に関する取組	21	A	A	A	コロナ禍でいろいろ制約がある中、オンライン等も活用し努力している。
				A	留学生獲得の方策を着実に進め、新規の協定校も7大学獲得した。海外派遣学生に関しては、オンライン国際協働学習などの代替プログラムを組むなど、コロナ禍の影響をなるべく抑える方策をとった。
				A	コロナ禍のために海外学生とのオンライン共修プログラムを開講するなど、電子媒体を駆使した諸々の企画に依って成果が得られた。
				S	支援、代替措置実施等、大いに努力した点評価。
				A	コロナの影響により従来通りの国際交流は難しかったものの、代替措置としてオンラインによる交流プログラムの実施は有意義であったと考える。今後も、留学という手段以外での、よりハードルの低い国際交流機会として活用を期待したい。
IV 附属2病院(附属病院及び附属市民総合医療センター)に関する目標を達成するための取組	24	A	A	A	最新医療機器も導入し、高度機能病院としての期待に十分応える努力を続けている。
				A	高度な医療体制作りを着実に進めながら、地域における最後の砦としての役割を果たすための様々な取り組みがなされた。
				S	病院による医療提供の面で新型コロナウイルス感染症への対応は抜群の成果を示した。この「IV」で正に難易度の高いテーマを克服し、大きな成果をあげたと評価できる。
				A	コロナ禍の中、重症患者受入を行い、その人材、設備、知見を生かして、市内コロナ対応病院のモデルとして、貢献した事は具体例に枚挙なく大いに評価できる。併せて通常医療体制も維持確保された事には敬意を表したい。
				A	
IV-1 医療分野・医療提供等に関する取組	24	A	S	S	新型コロナ関連のほか、がん医療、救急医療、災害時医療等の全般に亘り、評価されるべき努力が認められる。
				A	癌医療へ向けた地域の災害拠点病院として、新型コロナ感染症患者の受け入れに努めながらも通常の診療体制を維持した。
				S	地域における高度医療機関としての役割に匹敵する成果を上げることができている。また、新型コロナウイルス感染症に対する積極的な取組みは、極めて高いストレスが医療者に加わっていたにも拘わらず、多大な成果を挙げることができた。
				S	
				A	画像診断の簡易型遠隔システムの導入などの働き方改革はワークライフバランスの実現にもつながり、オンラインでの研修や交流機会の継続は休職中の職員にも心強いものになると考える。今後も活用を期待したい。
IV-2 医療人材の育成等に関する取組	32	A	A	A	十分な努力が認められる。
				A	医療スタッフだけでなく、病院運営に係わる事務職員も含め、人材育成に向けた種々の取り組みを順調に進めている。
				A	卒後2年の臨床研修医、専門医を目指す専攻医、特定行為可能な看護師・他の専門・認定看護師、薬剤師のレジデント制度導入など各職種にとってキャリアパスの充実が図られている。また、病院経営を担う事務職の育成にも積極的に当たっている。
				A	
				A	

令和2年度 年度計画(項目)		頁	法人自己評価	委員会評価(案)	委員評価	コメント
IV-3 地域医療に関する取組	37	A	A	A	十分な努力が認められる。	
				A	効率的な病床管理も目標の指標をほぼ達成し、コロナ禍の中でWebサイトの充実など出来る広報活動を行った。	
				A	高齢化の進展とともに急性期から慢性期に至る連携の必要性が益々高まっているなかで、そのことを具現化する様々な活動がなされている。また、新型コロナウイルス感染症患者の症状安定後における転院に関する地域連携も大きな成果である。	
				A	新型コロナウイルスに関するさまざまなマスコミ報道やネットの不正確な情報で市民の不安がおおられることが少なからずあったが、そのような中で信頼できる機関からのきめ細かな情報提供はきわめて有意義なものとする。	
IV-4 先進的医療・研究に関する取組	40	A	A	A	十分な努力が認められる。	
				A	臨床研究中核病院の承認をめざし体制を整えた。	
				A	附属2病院と医学部との連携が強化され、その中で先端科学研究センターとの協力も緊密となった。コロナ禍において連携のためのセミナーなどのオンライン化が進められ、以前より多くの参加があった。外部からの研究費獲得も積極的になされた。	
				A		
IV-5 医療安全・病院経営に関する取組	43	A	A	A	順調に取り組んでいると認められる。	
				A	コロナ禍の中、種々の施策により柔軟な病床運営ができた。病床の効率的な運用も推進された。	
				S	患者からの相談について情報の更なる一元化が図られ、各部署との連携による有機的な対応の強化となった。院長によるガバナンスでは、新型コロナウイルス感染症への対応などで院長からのメッセージ配信などあって大いに評価できる。	
				A	新型コロナウイルスのため受診控え、新患の減少はあったものの、患者の待合環境や病床の効率的運用にさらなる努力をされた点を評価したい。	
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	53	A	A	A	各種業務運営の改善と財務内容の改善に評価されるべき努力が認められる。	
				A	新型コロナ感染症対策をうちながらも、様々な施策によってコンプライアンスやガバナンス機能強化に努めている。	
				A	コロナ禍による負荷が多々あったものの、結果として計画を順調に達成した。	
				A	コロナ禍で患者数減少の中、単価増に取組み、医業収益増は評価する。	
V-1 業務運営の改善に関する取組	53	A	A	A	学内の意思疎通の確保に努めつつ、各種業務運営の改善を進めるとともに、コンプライアンス強化、ハラスメント防止、研究不正防止、災害対策等に積極的に取り組んでいる。	
				A	危機管理体制強化、職員のICTスキルアップなどの様々な取り組みを評価する。なお、大学知名度やブランドイメージアップについてはさらなる努力を求めたい。	
				A	負の残滓とも言えるべき従前の経験を踏まえてコンプライアンスの強化を図っている。また、新型コロナウイルス感染症への対応として、学生・教職員の安全を確保する様々な活動を行った。理事長、学長らトップによるリーダーシップも評価できる。	
				A	コロナ対応しつつの全セグメント黒字化、実際やっている人でないとわからない未知との戦いの中、最大限の評価したい。	
V-1(1) コンプライアンス推進及びガバナンス機能強化等運営の改善に関する取組	53			A	コロナ禍における寄付収入大幅増。オンライン授業、Web会議、テレワーク等に必要なIT整備、ツール導入も速やかに決定実行した点。ガバナンスが大きく改善、効果を出している。今後も期待。	
V-1(2) 人材育成・人事制度に関する取組	56				教員SD制度の取り組みを評価。ただサバティカルをとる教員の数が少ない印象をもった。	
V-1(3) 大学の発展に向けた基盤整備に関する取組	58				法人帰属意識の醸成に努めている。	
V-1(4) 情報の発信に関する取組	61				大学の知名度、ブランドイメージの向上に努める施策をさらに進めてほしい。	
V-2 財務内容の改善に関する取組	61	S	A	S	コロナ禍の苦境にあるものの、各種の財務改善努力もし、黒字となったことは評価したい。	
				A	ファンドレーザを中心に行った寄附渉外活動により、寄附件数、寄附額も上がった。職員の出退管理システム等の導入も始まり、職場の業務改善に関する取り組みも行われた。	
				A	寄付を含めて外部からの資金調達に大きな成果があった。また、新型コロナウイルス感染症への対応に伴う自治体からの補助がなされ、結果的に病院経営への大きな支援となった。これらにより、学生や医療者への経済的な援助も行われた。	
				S	オンライン授業、Web会議、テレワーク等に必要なIT整備、ツール導入も速やかに決定実行した点。ガバナンスが大きく改善、効果を出している。今後も期待。	
V-2(1) 運営交付金・貸付金に関する取組	61					
V-2(2) 自己収入の拡充に関する取組	61					
V-2(3) 経営の効率化に関する取組	62					
VI 自己点検及び評価に関する目標を達成するための取組	63	A	A	A	誠実に取り組んでいると認められる。	
				A	次年度の認証評価受審の準備を進めるとともに、将来構想の検討も始めている。	
				A	コロナ禍を含めて、社会的な影響が大きかったものの、的確な判断と実践があり、「VI」について順調に達成したと評価できる。	
				A		

総合コメント		コロナ禍によりいろいろ制約された面もあるが、教育・研究・診療等の各般に亘り顕著な努力と成果が認められる。
		高い教育・研究レベルを維持しながら、地域に開かれた大学、そして地域の最後の砦としての病院となる、という使命のもと、様々な取り組みを行い、着実に成果を上げている。コロナ禍の中、様々な対応をせざるを得なかった状況で、歩みを止めることなく、教育、研究、地域貢献、国際化を進めたことに対して、敬意を表したい。国際化推進に関して、2年次第2クォーター期間への必修科目未配置など、実質的な取り組みを行っていることを高く評価するが、さらなるグローバル化をめざすために、留学生の獲得と教育、就職支援における努力が必要と考える。また情報発信として、YCUのブランド力向上に向けた戦略的な広報活動を期待する。
		評価にあたり、コロナ禍への対応が大きなウェイトを占めたことが特筆される。すなわち、地域において大きな力を発揮すべき大学(研究、教育)としても、附属2病院(診療)としても十分に活動したことが何よりも多大な評価に結び付いたと考えられる。トップリーダーによるガバナンスと、そのもとで理念を共有する教職員個々の努力とが実を結んだものと思われる。今後の益々発展されることを期待したい。
		未曾有の先行き不透明な不安なコロナ禍の中、学生への支援、学修環境の維持。国際交流が停止する中、国際的大学の志向する当大学で、様々な工夫、アイデアの実施により、むしろ平時よりもグローバルなブランドを高めたと思う。大いに評価して良い。そして何より医療現場の努力と困難な中での活動、敬意を表したい。当事者でなければわからない数多のご苦労があったと思う。感謝したい。
		令和2年度は新型コロナウイルスの影響が長引き、オンライン授業のための環境整備と学生のサポートで経験のない負担が発生したところ、短い時間に環境整備を行い、様々な制約の中教育活動や入学者選抜が行われた背景にはたいへんご苦労があったものと推察する。半強制的なDXの推進という面もあったと思われるが、コロナ終息後も有益なものは積極的に活用されることを期待する。また研究機関・大学病院として、市民が今後もより安心して受診できるよう、さらなる経営の効率化と医療スタッフの充実、労働環境の整備をすすめてもらいたい。